

平成25年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省25-22)

施策名	目標5-2 自然環境の保全・再生					
施策の概要	原生的な自然及び優れた自然の保全を図り、里地里山などの二次的な自然や藻場・干潟等についてその特性に応じた保全を図るとともに、過去に失われた自然を積極的に再生する事業と、自然再生に係る地域活動を推進するための支援を実施することで、自然環境の保全・再生を図る。					
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原生的な自然環境、里地里山などの二次的な自然、干潟などの生態系を地域の特性に応じて保全、維持管理する。 ・国内の世界自然遺産登録地について、世界遺産として認められた価値を将来にわたって保全するため順応的な保全管理を推進するとともに、国内候補地の新規登録を目指す。 ・過去に損なわれた自然について、多様な主体の参画による自然再生を行う。 ・生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。 ・自然状況や社会状況、風景評価の多様化等の変化をふまえ、国立・国定公園の区域及び公園計画について、着実に見直しを行い、適切な保護管理を行う。 					
施策の予算額・執行額等	区分		23年度	24年度	25年度	26年度
	予算の状況 (百万円)	当初予算(a)	517	371	483	489
		補正予算(b)	0	0	0	-
		繰越し等(c)	▲1	△2	▲75	
		合計(a+b+c)	516	373	408	
執行額(百万円)		455	328	366		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	生物多様性国家戦略2010 (平成22年3月16日 閣議決定) 第2部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する行動計画 生物多様性国家戦略2012-2020 (平成24年9月28日 閣議決定) 第3部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する行動計画					

測定指標	1 自然再生協議会の数	基準値	実績値					目標値	達成
		23年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度	△
		24	22	22	24	24	25	29	
	年度ごとの目標値			-	-	-	-	-	
	2 自然再生事業実施計画策定数	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		23年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度	○
		26	21	24	26	31	35	35	
	年度ごとの目標			-	-	-	-	-	
	3 当該年度を終期とする国立・国定公園の点検等見直し計画の達成率	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	×
		-	-	7地区 100%	9地区 82%	6地区 86%	7地区 78%	100%	
	年度ごとの目標			-	7	11	7	9	
	4 地域連携保全活動計画作成数	基準値	実績値					目標値	達成
		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	32年度	△
		0	1	9				50	
	年度ごとの目標			1	10	15	20	25	

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	相当程度進展あり
	測定結果	(判断根拠)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産地域の保全管理体制の充実、里地里山保全活用行動計画の策定等、地域の特性に応じた保全・維持管理のための取組を着実に実施した。 ・自然再生事業実施計画について、平成25年度には、新たに4地区で策定され、全国各地で多様な主体による自然再生を実施した。 ・国立・国定公園の点検については、平成25年度については9地区の見直しを計画し、うち7地区の見直しを行った。 <p><世界自然遺産></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係省庁・地方公共団体・地元関係者・専門家の連携により、世界自然遺産の適正な保全管理を実施した。 ・屋久島、白神山地、知床については、モニタリング等を実施し、その結果を各地域の科学委員会を通じて対策に反映させる順応的な保全管理の一層の充実を図っている。屋久島、白神山地については、地域連絡会議が中心となり、科学委員会の助言も踏まえ遺産地域管理計画の策定に取り組んだ。 ・小笠原諸島については、順応的な管理を推進するとともに、科学委員会や地域連絡会議の体制の強化等を行い、各種課題に対し各々のWGを設置し、検討結果を対策に反映させる順応的な保全管理を推進した。特に平成25年3月に兄島で外来種グリーンアノールが発見されたことを受け、科学委員会の助言の下、関係機関と連携し、集中的な対策を進めた。 ・国内候補地である奄美・琉球について、専門家による「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」を開催し、推薦候補地域として奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島の4島を選定した。 <p><自然再生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然再生推進法の運用を推進することにより、平成25年度末現在、全国で同法に基づく自然再生協議会が計25箇所設立された。また、同法に基づく自然再生事業実施計画が35件(平成25年度単年度では4件)主務大臣に送付された。 <p><里地里山></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度は、ホームページ「里なび」上に、保全活動の参考となる取組事例を新たに13事例追加するとともに、活動団体や活動場所の紹介、保全活動に対する技術的専門家等の人材登録・紹介、技術研修会の開催情報、保全活動の取組の参考となる取組事例や文献の情報発信を行った。 ・里地里山の保全活動の促進や担い手の育成を図るため、保全再生計画づくりや具体的な保全活動技術を伝える専門家などによる技術研修会を全国で5箇所開催(平成25年度までに60ヶ所)し、605人(平成25年度までに4,101人)の関係者の参加を得た。 ・里地里山の保全活用の促進を図るため、里地里山の重要性、里地里山の保全活用の理念、方向性、取組の基本方針とその進め方及び国が実施する保全活用施策を具体的に示した「里地里山保全活用行動計画」に基づき、これまで「新たな共同管理のための手引書」等、里地里山の保全活用の取組の促進を図るための各種手引書等の有効な手法を確立しホームページ上で公表した。この内、平成25年度は、「野生生物の利活用による地域づくり」の手順書を作成しホームページ上で公表した。 <p><国立公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立・国定公園における自然環境の適切な保全と利用のため、各地の国立・国定公園の公園計画の点検等を見直しを実施した。平成25年度については、9地区の見直しを計画し、うち7地区の見直しを行った。富士箱根伊豆国立公園等の見直しを行った他、過年度から調整を続けてきた伊勢志摩国立公園や山陰海岸国立公園について見直しを行った。 ・また、沖縄海岸国立公園を見直し、区域を拡張して慶良間諸島国立公園を指定することについても、当初計画どおり平成25年度中に決定した。 ・当初、平成25年度内に見直しをすることとしていた2地区については、規制強化等に関する関係者との調整が整わず、平成25年度に見直しすることができなかったが、遅くとも平成26年度内に見直しがなされるよう調整中である。 <p><地域支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度末時点で、生物多様性保全推進支援事業の活用により、地域連携保全活動計画を作成した地方公共団体は9団体であり、平成26年度中には13団体が作成する見込みとなっており、目標は達成されなかったが、おおむね目標に近い実績を収めた。
	施策の分析		
次期目標等への反映の方向性			

学識経験を有する者の知見の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自然再生基本方針の見直しや自然再生事業実施計画の審査を行うに当たり、自然再生専門家会議を開催し、有識者の知見を活用した。 ・世界遺産地域(候補地)科学委員会を地域ごとに開催し、順応的な管理を実施した。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<p>平成25年度 里地里山保全活動支援委託業務報告書</p> <p>平成24年度 野生生物の利活用による地域づくり試行検討委員会委託業務報告書</p>
---------------------------	--

担当部局名	自然環境計画課 国立公園課	作成責任者名 (※記入は任意)	亀澤 玲治 鳥居 敏男	政策評価実施時期	平成26年6月
-------	------------------	--------------------	----------------	----------	---------